[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　2007年12月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定非営利活動法人縁会		
事業所名	グループホームゆかりの里		
所在地	千葉県千葉市花見川区千種町380番6 （電　話）043-258-3100		
評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年12月26日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】（19年12月10日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成16年8月1日	
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計　9　人
職員数	9　人	常勤5人，非常勤4人，常勤換算 6.8人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋造り
	1 階建ての　1 階 ～　1 階部分

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	60,000円	その他	食費36,000＋水光熱費20,000＋実費	
敷　金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（300,000円）		有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（4）利用者の概要（12月10日現在）

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	1	名	要介護2	2	名
要介護3	2	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	79 歳	最低	66 歳	最高	97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	幸有会病院　旭ヶ丘第一歯科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後3年が経ち、地域にもかなり溶け込んできた。入居者で結成されたゆかりの里コーラス隊は、地域の行事や他ホームなどで活躍の場を増やしている。今年11月には隣接してデイサービスセンターゆかりの里がオープンし、地域との新たな接点、ホームとの交流の機会が始まっているところである。正職員の定着率も高く、入居者一人一人に寄り添った、きめ細やかなケアを実現している。今後はターミナルケアも視野に入れ、医療連携体制加算の指定も受けている。料理や畑仕事、気の合う者同士のおしゃべりなど、入居者は思い思いに一日を過ごしている様子が見受けられた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	**前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）** 前回の評価で指摘された暦については、大きな文字の見やすい日めくりを早速入手した。時計も2ヶ所に設置し、時間が確認しやすいようにした。計画的な研修については、職員の希望を聞き、外部研修参加の機会を作ると同時に、月1回、内部勉強会も開催している。 **今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）** 自己評価は、全職員でミーティングをし、管理者・職員合同で作成した。
重点項目②	**運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）** やまびこ会議と名づけられた運営推進会議には、千種区区長、民生委員、近隣住民、家族代表、ふるさと農園長、千種町長寿会長、千葉市あんしんケアセンター晴山苑、消防署などが参加している。話し合いの内容は、ホームの暮らしぶりや行事の報告、事故報告などである。消防署が防災について話をした回もある。千葉市職員の参加は得られていない。（千葉市職員は運営推進会議に参加しない意向であるため）
重点項目③	**家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）** 茶話会のような雰囲気の家族会の開催や、運営推進会議の席上などで意見・要望を聞くようにしている。面会時はこまめに家族に声かけする。玄関に意見箱も設けているが、投書が入れられていたことは無い。全般的に意見・苦情等は少ない現状である。
重点項目④	**日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）** 入居者で結成されたゆかりの里コーラス隊を通じ、地域の様々な行事に参加している。災害時に地域と協力しあう体制も作られている。今後は新設されたデイサービスを地域に活かすことを検討しているところである。

2．評価結果（詳細）

（　　部分は重点項目です）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「触れあう心がお互いにうれしい、支え合って 認め合って 良縁を結び 安らぎのある ゆかりの里」を、設立当初から変わらずホームの理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	入居者への対応の仕方や家族との連携を図る際、常に理念に立ち返り、ホームが追求するケアの有り方を検討している。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの全品100円のガレージセールで、近隣から不用品や野菜等を集めて販売したり、入居者のコーラス隊が地域の行事で発表したりしている。自治会や老人会、民生委員とも密に付き合っている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員と管理者とで話し合いを行いながら作成している。前回評価で指摘された点については、改善するよう努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回の割合で開催している。自治会長、老人会長、地域住民、地域包括支援センター職員、家族代表らが参加し、ホームの現状報告や防災の連携、行事などについて話し合いを持っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の独居高齢者の保護をするにあたり、花見川区福祉事務所の生活保護課と連携を持っている。また区の介護保険課や千葉市の高齢施設課とも行き来している。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回、家族に「ゆかりの里だより」という手紙を送り、入居者の近況を知らせている。また3ヶ月に一度、「やまびこ」というホーム新聞を発行し、写真入りでホームの様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	茶話会のような気軽な雰囲気の家族会や運営推進会議の席上で家族の意見を聴取している。また面会時は個別に話しを聞き、玄関に意見箱なども設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	正職員はほとんど入替わりがない。パート職員が新規に入った際には、入居者が顔と名前を覚えるまで、根気よく紹介を重ね、馴染んでもらうようにしている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞き、外部研修参加の機会を作っている。月1回、職員の持ち回りで、発表形式の勉強会も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	千葉市グループホーム連絡会に参加して意見交換している。また入居者のコーラス隊が他ホームの行事に招かれることが多いため、交流の機会になっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から移ってきた場合は、ホームに入居してほっと安心される場合が多い。自宅からの場合はホーム職員が訪問したり、見学に来てもらったりして密にかかわり、馴染んでもらうようにしている。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者のできることは自分でして貰うよう、職員は気配りしている。調理、掃除等、男性も女性も得意なことに精を出している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のケアの中で、入居者一人ひとりの希望や思いを把握するように努めている。意思疎通が困難な場合や間違った行動が生じた場合でも、受容し安心できるようにしている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者ごとに担当職員を決め、アセスメントを行なうとともに、入居者･家族･全職員による担当者会議を行い、介護計画を作成している。介護計画は家族に郵送などで示すとともに意見や要望を聞き、介護計画に反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は日頃のケアの中で傾聴に努め、入居者の言葉から、また、表情などから、理解する努力を行い、より一層入居者に寄り添ったケアが出来るよう努めている。実施中の介護計画で対応できない変化が入居者に生じた場合はその都度介護計画を見直ししている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の協力を得て通院するとともに、入院時には職員と家族が適時、衣類の入れ替えに行くなどして、不穏にならないようにしている。協力病院との連携が図られている。最近、デイサービスを隣接地に開設･交流を図っている。		
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の主治医はケアマネジャーでもあることから、入居者の医療ニーズに的確に対応することができている。主治医とは携帯電話や紹介状の送信などでやり取りすることができ、ホーム長が入居者の医療ニーズに対応する上での心強い支えとなっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアについては、入居契約時に家族･利用者の意見と希望を確かめている。協力病院や主治医と相談･協議すること、ケアプランへの反映のあり方、職員体制などについて、検討･協議し、対応方針を確定している。ターミナルケアを視野に入れ、医療連携体制加算の指定も受けている。	○	これまでターミナルケアの事例は無かったが、ホームの歴史とともに重度化する入居者も生じてきている。こうした入居者を支えるために、主治医との連携や職員の力量、家族の意向の把握や信頼関係が重要となる。ホームの理念に沿った、悔いのない取組みが期待される。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1．その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室やトイレ等のドアの開閉について、プライバシーを損ねることのないようにしている。プライバシー確保の大切さについては職員に徹底されており、職員は常に意識しながら支援している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者による「ゆかりの里コーラス隊」の活動やレクレーション活動時など、職員は入居者一人ひとりの表情や状態に気配りしており、入居者のペースを大切にするようにしている。また、買い物や外出等の希望が出された場合は、迅速に対応するようにとしているが、職員体制等により直ぐに実施できない場合は、入居者と約束をして対応するようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理･盛り付け･片付け及び食事は、職員が入居者と一緒に行なっている。収穫したばかりの野菜を食卓に上らせ、ご飯･味噌汁は温かいままで提供されている。「みんなで食事すると美味しいわね」の入居者の声が印象的であった。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望に合わせるようにしている。午前から入浴される入居者もいる。入浴に際しては安全面に気を配り、入居者に合った介助方法を工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理や盛り付け、洗濯物干しやたたみ、農園での作業など、入居者の得意なものを発揮できるようにしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に応じて、外出する機会を作っている。外出が日課になっており、1日2～3回程度の外出になっている。訪問調査日は12月であったが、8名の入居者が朝の散歩に出かけていた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵をかけることはしないで、入居者が自由に暮らせるよう支援している。職員は入居者が知らないうちに外出することのないよう、入居者一人ひとりの精神状態を把握し、常に行動に気を配っている。夜間は防犯のために鍵をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策についての勉強会を消防署から講師を招き「やまびこ推進会議」で行なった。「やまびこ推進会議」のメンバーである地域の方々の協力体制について話合いが行なわれ、避難場所についても「こてはし高校」や「ふるさと農園」の協力が得られるようになっている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 (実施している内容･実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量･水分量を把握している。入居者の体調が悪く、食べることが困難な時には、エンシュア(栄養補助食品)を提供するなどの支援をしている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、ﾄｲﾚ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ﾘﾋﾞﾝｸﾞにはｺﾀﾂがあり、廊下にはｿﾌｧが2つ配置されている。テーブルや椅子も含め、調度類は家庭的なものになるよう工夫している。建物の設計面での工夫があり、不快な音や光は無い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は馴染みの物を持ち込み、家族や思い出の写真を掲示するなど、居心地よい居室の雰囲気になっている。ホームとして持込みの制限はしていない。		